

## (2) 授業改善グループ

### 【要約】

授業改善グループでは、各教員が授業内容・方法を改善し、向上させることを目標としたFD活動について取り組んだ。その1つは春学期2週間、秋学期3週間の授業参観である。授業参観では参観者が授業者へ感想シートを送った。また秋学期については、学期半ばに授業改善アンケートを行い、後半の授業進行について学生の要望を受け取る機会を設けた。これらの活動を行った結果、FD委員会内において、次年度へ向けた授業参観実施時期、コルズの活用などの検討課題が挙げられた。次年度にはこれらの検討課題に加え、委員ではない教職員への意見聴取の場を設けることの検討の予定である。

#### 1) はじめに

授業改善グループでは、各教員が授業内容・方法を改善し、向上させることを目標としたFD活動の取り組みとして授業参観を進めていく。そのファーストステップとして、今年度の授業参観の目的は、授業参観の風土を根付かせること、同一学部内で教員が相互に参観しあうことで講義間での連携を図ることを課題とした。これら授業交流（教員相互参観授業）は春学期2週間、秋学期3週間の期間を設定し実施した。また、これまで学期終了時に行われていた授業についてよかった点、改善して欲しい点および教室環境等の自由記述アンケートを、授業改善アンケートとして時期を見直し、実施した。

#### 2) 授業参観

##### ① 目的

各教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的取り組みとして、授業参観の風土を根付かせることおよび、同一学部内で教員が相互に見学しあうことで、講義間での連携を図ることを目的とする。

##### ② 実施期間

平成23年6月27日（月）～平成23年7月8日（金）

平成23年11月7日（月）～平成23年11月25日（金）

### ③ 手順および内容

授業により、参観の可否が生じることを配慮して、以下の3つの授業参観の内容を提示した。また参観者は授業者に対し感想を述べることとしたが、直接ではなく、感想を述べた人物が特定できないよう配慮を行った。

- ・各教員は、参観期間の授業内容に応じて、参観の可否を連絡する。また事前に参観の連絡を受けたい場合は、その旨を連絡する。
- ・各教員は、参観後、所定期日までに、学内の教職員用に設定されたサーバー内の共有フォルダ内の授業参観感想シートに記入し、FD委員会委員担当者まで、データ(メール添付)で提出する。
- ・提出されたデータにおける個人情報は、FD委員会委員長およびFD委員会内・授業改善ワーキング・グループのみ扱えるものとする。

各参観者から提出された感想シートは記述者を削除し、教室規模でとりまとめフィードバックを行った。

### ④ 参観シートまとめ

各参観者からの参観シートについては、教室規模でまとめを行った。まとめについては「授業の構成」、「学生コントロール」、「授業のテクニカル部分」、「その他・感想」の4項目とした。

これらのまとめについては、参観者の授業参観についての視点、感想はそれぞれに異なること、小教室演習科目と大教室講義科目では、感想シートへの記述内容に差があることなどを踏まえると、どの記述も重要な一意見として残す必要があると考えた。そのため、ほぼ同一と判断できるもの以外は、列記している。この感想シートのまとめは、学内共有フォルダを用いて、全学へ開示、フィードバックとした。参観シートは、春学期、秋学期のそれぞれでまとめを行った。秋学期のまとめでは、春学期まとめてなかったものについてのみまとめた。実際のまとめは、「表 2. 平成 23 年度春学期授業参観シートまとめ」、「表 3. 平成 23 年度秋学期授業参観シートまとめ」として、次に示す。

表 2. 平成 23 年度春学期授業参観シートまとめ

<小教室>

**【授業の構成】**

- ・講義内容を的確に P P にまとめ、メリハリのある授業になっていました。図やテストも分かりやすく参考になった。
- ・小規模のクラスで対話式の講義だったので、学生の意見や主張、考えなど大クラスではなかなか聞くことができない発表を聞くことができ興味深かった。
- ・授業の進め方について、「この課題を〇分まで」（あるいは「これから休憩を〇分とります」など）と細かく作業見積りを提示して、学生に課題をさせることがとても参考になった。
- ・演習は前回の授業で行い、今回は復習をかねて理論を学習するというように、演習と理論をうまく組み合わせながらの授業が印象的であった。確かに学生の状況に合わせてながら、演習を先に行った方が、より強く印象に残り、その後の理論がスムーズに学べる場合もあると実感した。
- ・前回の振り返りを短い時間ではあるが、画面を見せながら補足説明をしたり、また発言をさせることで、学生は「この授業を受けている」と再認識することが出来ていた。たくさんの科目数を受講している中で、今どの授業を受けているかを認識させることは、学習効果を高める上で重要だと感じる。
- ・前回の復習を 15 分くらいかけてじっくり行っており、今日やる内容にスムーズに入っていた。

**【学生コントロール】**

- ・映像や実物を使いながら、丁寧に指導されており、学生のモチベーションも高く、うまくいかないと何度も進んでやり直ししながら、決められた実技に取り組む学生の姿が見られた。
- ・学生への問いかけのタイミングがよく学生の緊張感を高めていること、途中課題やワークを入れることによって低下した集注力を再度引き上げる展開は大変参考になった。
- ・学生との距離を近く学生一人一人の顔を見ながら授業できることの効果を示していただいた。さらに双方向授業の可能性を考える上での技術を教えていた。楽しみながら基本的な知識・技術を修得させる授業展開は自分の授業形態を考え直すうえでヒントをいただけた様な気がする。
- ・学生の名前を呼んでの声かけが適切であった。学生一人一人を把握していることが感じられた。また学生は名前を頻繁に呼ばれることで、授業に主体的に参加していた。
- ・授業の進行を、学生のリーダーにまかせ切ることができている。そうすることで学生の自信にもつながり、学生は自分たちでやらなければという気持ちで、活発なディスカッションがなされていた。先生の介入もタイミング良くなされていた。
- ・学生の発言に対して、必ずコメントを返していたところが良かった。

**【授業のテクニカル部分】**

- ・グループワークと全体での指導とのバランスが良かった。
- ・淡々と授業を進めるのではなく、大きい声でメリハリをつけ、また一生懸命やっていることで、学生も真面目に聞く姿勢がとれていた。
- ・スライドをレーザーポイントを使用しながら説明していたため非常にわかりやすかった。
- ・自身の経験談なども踏まえながら、話しをしていたため非常にわかりやすかった。
- ・学生をまきこみながら授業をすることで、お互いに良い影響を与えながら授業をすることができると感じた。
- ・穴埋め形式などで、自分なりのまとめプリントを作ることには、未来大学の学生たちは、とても大きな集中力を発揮することを改めて実感した。

**【その他・感想等】**

- ・3~4人ずつうつ伏せになっていたのがいましたが、起こせない理由がなにかあるのか、とも感じた。
- ・一人、議論に入れないものがいたのが気になった。
- ・学生に自由に発言させる事も大事ですし、自主性を育てるにはその方が良いと思う。ただし、「考えてはいるが、自分からは発言しない」学生が本学は非常に多い。自ら発言させるためには、まずは、人前で発言をさせる習慣を付けさせなくてはならない。指名される

ことで、今以上に考えたり、人前で発言することに違和感が無くなったり、今以上に緊張感を持って授業に取り組めるように感じる。(指名をすれば、良い発言をする学生も多い。)

- ・プレゼンテーションで扱っている内容を、専門の授業などともリンクさせていくとそれもまた面白いと感じた。そのためにもまずは、お互いの授業でどのようなことを行っているかを、担当教員同士が知ることが重要だと思うので今回このような授業参観期間はとても良い機会であると感じた。
- ・参観させていただき、自分の授業を振り返り、また他の先生とも授業についてお話をする中で、疑問がさらに深くなっている。一般的にうるさいとされている学生を黙らせるには、ワークシートや座席指定、指名による発表などが、定番のやり方であると思う。しかし、そういった同じような形式の授業展開が、朝から夕方まで続くような一日では、学生の集中力が保てないのではないかと思うようになった。特に本学タイプの学生の集中力は継続しにくいのではないかと考える。
- ・学生の個性に合わせた授業展開は大切だと思うが、そこに教員個性を盛り込んでいかなくては、相互に満足を得られる時間にはなりにくいのではないかと感じた。そのためにどうすべきか、というと妙案はすんなりとでてまいりませんが、教員個性の発揮の仕方が問題のひとつとして考えられることも必要ではないかと考えるようになった。
- ・全体的に学生はまだ高校生感が抜けていないようで、学ぶ姿勢が出来てないように思う。
- ・机にかばん、携帯電話、飲み物が置きっぱなしの状態だったので、授業開始時にチェックした方が良く思う。

#### <中教室>

##### 【授業の構成】

- ・授業の構成が良い。∵授業を3つのパートに分け、最初の10分：人物テスト？のようなクイズ形式の臨床心理学全般の復習⇒次の10分：臨床心理学に関わる人物エピソード紹介⇒本論としており、1つの授業の中で、カウンセリング論のみならず臨床心理学全体との関わりがわかるようにされていた。また授業の構成を冒頭に説明しているのも良かった。
- ・各自役割を与えられ、グループで事例に取り組む活動は、それぞれが考え、やり取りがありよい学びの経験になっているように感じた。

##### 【学生コントロール】

- ・100人規模の授業でも「個人」を意識した授業になっていた。∵学生一人一人のワークの記述に机間巡視をしながらコメントしたり、個人名を挙げて私語を注意したり、肩を叩いて起こしたりと、一対多だけになりがちな講義を上手にハンドリングされていた。
- ・2年生自由席ではあるが、講義中のお喋りがほとんどなかった。工夫として、①座席のそばをずっと歩いている、②はじめに脅しを効かせている(推測)、③展開の仕方にメリハリがある、が挙げられる。

##### 【授業のテクニカル部分】

- ・学生を飽きさせない工夫がなされていた。∵本論に入ってから10分置きにワークを取り入れ、カウンセラーとしての「自己理解」を学生自身の立場で考えられるようにし、解説とワークで住行にメリハリをつけていた。
- ・学生の理解を促進するための工夫がなされていた。∵理解促進に役立ちますし、また教員自身の体験談を多く入れることで具体的な状況を想像できたのではないかと思う。
- ・授業進行の明確化(ロールプレイの進行→資源活用シートの利用→各班への巡回とアドバイスを→途中で課題を絞る→ある班の意見をとり上げ励ます)がなされていた。
- ・授業内容の明確化であった。(カンファレンスがスムーズに進行するためにをテーマに、心理を学ぶものの課題、学校の組織の理解、チームへの働きかけ、会議が長引く事例、カンファレンス事例への理解と配慮、守秘義務などを授業の進行に合わせて適宜呈示)
- ・授業教材の明確化であった。(パワーポイント、資料、ワークシート)
- ・専門的なトピックを、周辺で起こっている事件と結びつけて話す等、学生が実感を伴って理解できるように構成された講義であった。私自身も抽象的な概念を具体的なレベルに落とし込んで伝えられるようにしたい。
- ・専門用語を当たり前のもので扱っていて、学生たちもワークシートの中でそれを用い

て自らの意見を論じていた。

- ・授業の冒頭に黙想の時間があり、その間に先生が机間巡視をされ、教科書忘れがないかのチェックされていた。教科書を持ってくるという当たり前のことを、毎回の授業で心がけさせたり、ルーティンによって授業への集中力を整えさせたりと、細かな気配りや教育的意図を随所に感じた。
- ・地声でマイクなしで話されており、話しながら教室を回っていた。
- ・前回書かせた小レポートの中でよいもの数点を、個人名を出して本人に読ませる形で発表させていた。80名くらい履修者はいたと思われるが、そのなかでインターラクティブな授業をする効果を目の当たりにした。「授業はナマモノ」とはいうが、印象深かった。作文の発表（プリントで配布）はいままで名前を伏せていたが、公表するとやる気につながるかもしれないと感じた。
- ・テキストに完全に合致した進め方で、プリントがないため、学生としてはわかりやすいのではないかと感じた。

#### 【その他・感想等】

- ・ワーク後に解説に切り替える際、続けて課題を行っている学生もいたり、熱気が残っている学生もいたりしたので、バサッと思いきって中断させてしまうか、最初に終わった学生への課題を説明してしまっておき、時間調整できるようにしておいた方が良かったかもしれない。
- ・201教室で前列中央に学生を座らせると、後ろの学生はスクリーンのした方が読めなかった。

#### <大教室>

##### 【授業の構成】

- ・情報量の多い講義内容を平易な言葉に置き換えて、日常生活の現象に重ねて説明されていること、パワーポイントの情報を絞こみ効果的に要点を学生に提示されているところがとても参考になった。
- ・「質問紙法」は今後の就職活動にもつながるところなので、学生にとってとても大切な授業だと感じた。

##### 【学生コントロール】

- ・机間巡視されながら説明をしていたことで、学生は書きながら、聞きながら、常に先生を近くに感じられていた。またそれによって後方の学生の学習状況を伺うことができ、また学生の出欠や遅刻欠席を目視で確認できていた。
- ・学生も多い中、挨拶の後、学生全員に深呼吸をさせてから、授業を始められていた。着席したとたんにはだだらとなりがちのところ、深呼吸を取り入れたことで落ち着きが生じ、導入として参考になった。また、あらかじめ教員が用意したワークシートの課題について、具体的な実践ビデオの視聴をもとに、保育のあり方を考える授業が展開されていました。
- ・初回授業からの指導が徹底されていた。
- ・座席指定によって静かな環境が保たれていた。
- ・学生を名前と呼ぶことによって、学生が教員に対して親しみやすくなると感じた。
- ・出欠カードを自分で回収することで、気になる学生を直接注意出来てよかった。

##### 【授業のテクニカル部分】

- ・スライドの内容を全て学生に書かせることによって知識を定着させる工夫をしていた。
- ・学生の感想をそのままスクリーンに映し出し、解説や前時の補足説明を行っていた。それによって視覚で確認できて学生にも伝わりやすくなると感じた。
- ・ビデオ他視聴覚教材を豊富に使用されて飽きさせない工夫をされており、またビデオを見る際、ワークシートを配布するのでビデオ視聴の観点がわかり、内容を把握するのにとてもよいと感じた。
- ・マイクを回してワークシートに書き込んだ内容を発表してもらうことも、緊張感が出て良い工夫だと思いました。またワークを適度に取り入れることによって、一方的にならない工夫がされていた。
- ・挨拶時、「先生の顔をみなさい」、「この部分に線を引きなさい」、「30秒で読んで理解しなさい」以上の言葉掛けによって、集中力が一気に上がった様にした。
- ・重要な項目はテキストへ直接書き込みさせたり、マーカーを引くなどの指示を具体的にす

ることによって、

学生は重要な点だと意識をしやすくなり、また振り返りをしやすいように感じた。

- ・授業の振り返りシートを活用されていることが、とても参考になった。学生からの質問・疑問について、次の授業時に先生からの返答が丁寧に書かれたプリントが配布されることで、質問した学生のみならず、多くの学生の目にとまるため学びが広がると感じた。また、学生の質問・疑問に、必ず先生が応えてくれるという信頼関係も築かれるのではないかも思う。
- ・私語がなくなるまで授業を進めないというスタイルが良かった。
- ・先生の声の大きさ、筈舌、テンポなど、とても聞きとりやすかった。
- ・スライドを流すテンポやスライドの文字、説明のタイミングが分かりやすかった。
- ・課題をやらせている間に机間巡視しながら出欠を取ることで不正なく出欠の管理が出来ると感じた。
- ・授業の要所で学生たちに自分の考えをプリントに書かせる時間を与えることで、学生が自分の考えを書くことによって自分の理解度が確認でき、一人ひとりの学生と授業の距離感を保つことができるように感じた。

#### 【その他・感想等】

- ・飲み物を机に置いている学生が多くて気になったが、熱中症予防のために置かせているかもしれないと感じた。他の授業はどうしているのかという部分を確認していき、共通認識で始動していきたいと思う。
- ・真ん中や後ろに座っている学生にも発言をさせてもよいと感じた。
- ・308の広い教室で学生がまばらに座っているため、真ん中より前のみ着席させるなど指定してもよいと感じた。
- ・再履修ということで、全体的にモチベーションが高くは感じられなかった。
- ・遅刻者が多く、教室の前方に扉がある308教室だったため、遅刻者が入室するたびに集中力が途切れてしまう感じがした。
- ・携帯電話を使用して、写メでモニターを撮影していた。  
「後でノートをまとめるために」と言っていたため、強くは否定しませんでしたでしたが、授業時間内に携帯電話の使用を禁じている以上、そのような使い方も問題があると思う。
- ・とにかく学生の私語が多く、後ろの席にいと先生の話している声が全く聞こえないのが気になった。どの授業であれ、どのように学生に注意を促していくかが、重要になると感じた。
- ・途中で退席した戻ってくる学生が4、5名おり、退席時間が長い学生は20分以上離席していた。退席する際と戻った際に、名前と時刻を自己申告させてはどうかと感じた。
- ・308教室の授業でレポート返却をする際は、あまり時間をかけずに行った方がよいかもしれない。待っている時間を不満に思う学生がいるように思う。
- ・教室後方に座っている留年及び再履修生の学習態度が不真面目で、騒いでいるわけではないが、真摯に学ぼうとする学生が多くいる中で、授業の雰囲気や乱れていると感じた。
- ・やはり学生のことが、ほとんどがマイクでの発表（応答）の主述が不明確で文になっていなかった。これらの点もこれから学生とかかわる際に気をつけていこうと思う。
- ・次々に学生に問いかけ学生がマイクで答えていく場面で、席順に当てていたので、自分のところにマイクが回ってこないと安心している学生たちが数人いて、先生の発問に対して何も考えていないようだった。バラバラ当てた方が少しは緊張して考えるかもしれない。

#### <実習教室(会議室・調理実習室・体育館・図工室)>

##### 【授業の構成】

- ・学生がのびのびと身体を動かしており、大変楽しそうな雰囲気だった。
- ・実践演習などが多く、学生もあきずに授業を受けられると感じた。
- ・自由で堅苦しくない雰囲気、自然で温かい雰囲気の授業であり、学生個々の主体性を尊重した授業展開であり、環境構成であった。

##### 【授業のテクニカル部分】

- ・グループワークのすすめ方が、とても参考になった。学生が、戸惑うであろうところをしっかりと講義なさっていた。また、学生に伝えたいことが、体験から理論へと結びつけていることの巧みさに感動した。学生が楽しそうに行動しそして主体的に全体を理解しながら

ら動いているところは、授業の理解がしっかりしているからだと感じた。  
・学生の実態をつかみながら、それを授業に生かそうとしていたし生かされていた。

#### 【学生コントロール】

- ・この授業は将来も役に立つと学生は理解していたので、意欲的に学んでいるように感じた。どの授業でも、今学んでいることが将来どのように活かされるのか、ということを授業内でわかりやすく伝えることは大切だと感じた。
- ・多くのカード参考作品例を具体的に提示され、学生が「やってみたい」「やれそう」という意欲とイメージを具体的に持つことにつながっていた。

#### 【その他・感想等】

- ・帽子をかぶったままであったり、飲み物やバッグ・携帯が出たままの学生が居たりしたので、授業開始と同時にこれらはきちんとさせたい。些細なことかも知れないが、社会に出て行く際、重要になると思われる。

表 2. 平成 23 年度秋学期授業参観シートまとめ

#### <小教室>

##### 【授業構成】

- ・1時間半を、講義、学生のパフォーマンス、小グループでの振り返りに分け、全体がうまく構成されていた。学生は、熱心に授業に参加し、また、パフォーマンスは楽しそうだった。授業の終わりには、席の整列をするなど、よくコントロールされていた。
- ・学習内容をグループで取りまとめ発表するという形式で、学生が進んで討議を行っていた。
- ・非常にソフトな雰囲気で行われ、講義の雰囲気作りが素晴らしかった。

##### 【学生コントロール】

- ・①学生にイメージを持たせるために、お手本を用意されている。②グループで活動させる際、すべての学生に役割がいくように工夫されている。③学生が書いた絵を次の授業に生かすことで、自分の絵が生かされている気持ちになり、学習意欲につながっている。

##### 【授業テクニック】

- ・グループワークでは、互いのグループに関心を寄せて、声を交わすこともしばしば見られ、良い方法は他のグループに伝わったり、並行的になりがちなグループワークが開かれており素晴らしかった。ご担当の先生が、学生の育ちに合わせてグループワークのお授業をされていることが、大変参考になった。
- ・授業の冒頭で、学生の課題（指導案）を回収されていました。その指導案は、1週間以内に添削し学生へ返却し、十分に書けていない学生には再提出もある旨を、伝えていらっしゃるものである。短期間で返却することにより、学生の意識が継続し、学びが深まるのだと感じた。

##### 【その他気づいた点】

- ・30分以上の遅刻者に対して特段の注意をしなかったことは本学の講義管理として一考していかなければならないポイントでもある。
- ・教科書を持参していない学生が数人いた。秋学期後半になってもまだ持っていない状況は改善しなければならない点である。
- ・学生同士の話し合い、質疑応答などがクラス全体、もしくは、小グループにおいてももう少し活発に行われるとよいと思った。

#### <中教室>

##### 【授業構成】

- ・1時間に2つの心理検査を入れているが授業時間内に上手に学生を使って、運搬作業などされており、タイムマネジメントと授業運営の点でとても参考になった。
- ・張り絵を通した行動観察という実践的な授業を通して、行動観察のポイントやその難しさ、重要性を理解させる取り組みがとても参考になりました。演習や実習にありがちな「騒々しさ」が全くなく、学生を授業に集中させる工夫は素晴らしいと感じる。机間巡回することで学生の緊張感を高め、さらにはお互いの観察記録を回覧させ、感想を述べさせることで課題に対する集中力を上げる工夫はぜひ参考にさせていただきたい。

##### 【学生コントロール】

- ・統計法というある意味、学生にとって「難関」である科目に対して取り組みやすい工夫が

されていることが参考になった。特に課題を身近なものに設定し統計法を知らなくても取り組めるよう工夫されていること、途中で学生の集中力を高めるために休憩を入れることなどは授業展開を考える上で、是非参考にさせていただこうと思う。

- ・授業のスピード、話をするスピードを学生の学習スピードを見ながらコントロールしていた点がよかった。

#### 【授業テクニック】

- ・練習問題を多く取り入れ、学生がつまづきやすいところを何度も練習できるように工夫しており非常に参考になった。

#### 【その他気づいたこと】

- ・先生ご自身が楽しみながら授業を進めておられることが、見る者にも伝わってきました。いきいきと躍動感にあふれた授業、すばらしいと感じた。ふりをつけてわらべ歌をうたったり、子どものジグソウをからだ全体で表現されたり本当に楽しい 90 分間であった。まずは教員が楽しみながら授業をするという原点は忘れないようにしたいと改めて感じた。
- ・教員の持つ雰囲気や学生に伝わることを体感した。教員自身が持つ「雰囲気」をどう生かしていくかの大切さを感じた。
- ・「子ども文化」という授業が、心理専攻の選択科目となっていることに疑問を感じる。保育専攻の学生にも是非、学んでもらいたいと思う素晴らしい内容である。
- ・検査用具の数に限りがあるので、用具を扱っている学生と扱っていない学生の差がでてしまう。全員ができる作業などを増やす等、構成に工夫をしたいと感じる。

### <大教室>

#### 【授業構成】

- ・前半に講義をし、映像を使用し、その振り返りと考察をするといった授業内容で、学生の集中力を維持するように工夫がされていた。

#### 【学生コントロール】

- ・注意の仕方について厳しく注意されていましたが、上手にコントロールされており、学生対応が参考になった。
- ・ハンドマイクで後ろの席にまで歩いて行きながら話されるので、後ろの席の学生もよくペンを走らせていた。学生の近くで、一人ひとりの顔を見ながら授業をすることが大切なのだと気づかされた。
- ・チャイムがなる前に、授業準備をするように学生に合図を出し、授業を静かにスタートできるように考慮されていた。また、遅刻者は前の座席に座らせることで、その後のフォローや指導がしやすいように感じた。
- ・学生に発表をさせており、また学生がしっかりとパワーポイント資料を準備していることに感心した。さまざまな授業でこのように学生が主体的・能動的に取り組める工夫が必要だと感じました。
- ・ネームカードというのを学生が準備しており、先生に向けて置いていた。大人数の授業ではなかなか学生の名前を覚えるのが大変なので、このようなカードを使用するのは便利だと思う。

#### 【授業テクニック】

- ・講義の出席の取り方、先生の話だけで進めるのではなく、学生を指名し問いながら進めること。またグループで活動させる時の場の設定、全員に活動を保障する時間を与えている点が非常に参考になった。
- ・書く箇所とプリント配布済の箇所が明確であり、またその授業の形式が学生にも定着している様子が伺えた。作業をさせることはやはり学生の授業への集中度を高める一つの方法だと感じた。ワークの時間と「聴く」時間を明確にし、メリハリをつけさせながら進行できるようにしたいと感じた。

#### 【その他気づいた点】

- ・学生の学習意欲が低いことが残念だった。遅刻は非常に多く、15分位遅刻してきた学生は10名近くいた。そして、携帯、おしゃべりと続き、DVDの視聴でも何度も止められ注意を受けていた。先生は、全体に向けて何度か注意したり、個人的にも見回りをして注意されていた。内容的にも保育現場で働くことになる学生たちにはマッチしていたと思うが、職業と直接的に結びついた内容でさえ学生がこのような態度でいることが非常に残念



だった。

- ・1年生のクラスで、また200名近いということもあり、集中していない学生がいた。TA等サポートが必要だと感じた。
- ・書写をしないグラフや図の説明では、少しざわついたり注意がそれたりする学生が見受けられた。グラフや表を読み取る能力不足や、統計結果などに関心が薄いためかもしれない。私の授業においても、本学学生の特徴（弱点）のひとつとして考慮しながら、統計結果に関心を持てるような工夫をしなければならないと感じた。
- ・大講義室でしたが、学生との対話を取り入れたりしてよかった。ただ、受講する学生数に対して教室が広すぎるように感じる。自由席のためか学生が後ろに固まってしまう、先生と学生の距離が出来てしまったのが少々残念に感じる。教室設定の際には受講者数を考慮して決めているのかどうか気になった。
- ・コルズの出席管理がうまくできず、35分くらい時間がかかっていた。
- ・授業中、スライドをうつす手間を省くため、写メやデジカメでスライドを撮影している学生がいた。先生は注意していなかったもので、どのような指導をしているのか気になった。
- ・退室する学生が何人もいた。
- ・大教室ということもあり、飲み物を机に置きっぱなし、授業開始すぐ机に伏せて寝る、帽子をかぶったまま、ケータイやおしゃべりをやめられない、などの学生が多くいた。徹底管理が難しいようだ。

#### <特殊教室>

##### 【授業構成】

- ・作業の進め方（分担や割り振りなど）について学生たち自身に考えさせるというところが参考になった。

##### 【学生コントロール】

- ・片づけでは、一滴の水も残さないように丁寧に片づけることを指示し、その大切さを肌で感じとらせる指導に、学生と丁寧に向かい合う大切さも学んだ。

##### 【授業テクニック】

- ・学生のよかった点をほめたり、前時間に書いたものを紹介したりして、意欲を高めている点、また一定の時間のなかで目標に到達するために、プロセスづくりから学生にさせることで、実際に保育の現場に出た後にも、限られた時間をマネジメントする力が身につくだろうと感じ、非常に参考になった。
- ・パワーポイントを使い、この授業で何を学ぶかを提示されていた。学生に今日の授業の目的や90分の流れが可視化されているため、理解しやすいと思った。これまで、授業のテーマは、口頭で伝える事が多かったので、せめて板書で示すようにしたい。
- ・実際の保育園や幼稚園に掲示された壁面構成の写真が豊富にスクリーンに映し出され、学生達がイメージしやすくなっていました。これも、今取り組んでいる勉強が、実際の保育の場でどのように生きるのかを実感させてあげられるという点で、非常に効果的だろうと感じた。
- ・真剣にミルクをつくっている姿は、ほほえましく、将来の保育者を目指して生き活きと学んでいる学生の姿に期待をもった。冷ましたほ乳瓶のミルクを先生に差しだした学生が「何度くらい？」と質問すると、温度計なしで肌にあてながらみごとに当てる先生に、学生の尊敬の目が寄せられていた。先生への信頼が、こういうところでも生まれていくのではないかと、改めて感じさせられた。

##### 【教室環境】（全ての教室含む）

- ・マイク音量が大きすぎたのか、いささか声が割れてしまっていた。
- ・教室の機器の操作に慣れるための研修や、授業において効率よく使う工夫を共有し合うことが必要に感じられた。例えば、あの一つのパソコンでパワーポイントから各種機器の操作をまかなおうとすると、パワーポイントのスライド画面を一々切り換えてブルーレイ等の操作をしなくてはならなくなる。パワーポイント専用のパソコンと操作全般をするパソコンと役割を分けておいた方が授業進行はスムーズであろう。
- ・事務局へのお願いですが、B421教室の黒板に向かって左側の最後部は電波が届かないのか、マイクの音声が入らなかった。学生にとっては後ろへ移動して話すことは注意を向けるよい機会になるので、ぜひ電波状況を改善していただきたい。

### **3) 授業改善アンケート**

#### **① 実施概要**

これまで学期終了時に、「授業評価アンケート」と同時で行われてきた記述式アンケートについて実施時期の見直しを行った。春学期は時期や手順の検討期間になり、秋学期に下記のような時期、内容で実施した。各教員の授業改善のための材料として有効な利用を考え、FD委員会への提出は求めなかった。

#### **②実施時期**

平成 23 年 11 月 14 日（月）～ 平成 23 年 11 月 18 日（金）

内容：・アンケート用紙は事前に各授業の履修者人数分メールボックスに配布する。

- ・回収後のアンケートは各自で確認・保管し、今後の授業に活かす。

FD委員会への提出の必要はない。

#### **③今後の課題**

実施後の感想について、全学への意見聴取の機会を作ることが出来なかったのも、ここには委員会内でのまとめを記す。

実施時期については、おおむね有効だったという感想を持っている。ただ授業内容や教授方針により、学生の要望をそのまま受容することはできないという意見も上がった。学生からの要望を受け取った上で、教授方針についての再提示を行い、学生の要望にそって教員が変わるべきところと変わらざるべきところの両者が必要だろうという意見も上がっている。これらの意見を踏まえ、平成 24 年度についても学期中間時期での授業改善アンケート実施を目指している。

実施に際して、次の課題が挙げられた。紙媒体での実施は作業量の問題、コスト面で考慮されるべき内容などの費用対効果についての課題である。これらの課題については、コルズを用いて実施した教員からの助言があり、十分な活用が出来るというものだった。これらを踏まえ、今後はコルズの活用を検討していく。

### **4) 今後に向けて**

今年度は、授業参観、授業改善アンケートを実施した。前年度から実施時期や方法など、変更点があるが、その変更点が有効だったかどうか、意見聴取をすることができなかった。次年度については、FD委員会内で得られた意見を踏まえ、授業参観、授業改善アンケートを実施し、その後、活動そのものへの意見聴取を行う予定にしている。

また、コルズを活用した授業改善アンケート実施の準備も進めていく。